

学校コード F114310104892

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 大学の設置

注1

認可

注2

湘南鎌倉医療大学 看護学部 看護学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人徳洲会
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 大学事務局

職名・氏名 局長 前田 広

電話番号 0467-38-3131

（夜間） 0467-38-3131

e-mail soumu@sku.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	19
4. 既設大学等の状況	20
5. 教員組織の状況	21
6. 附帯事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	39

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人徳洲会

(2) 大 学 名

湘南鎌倉医療大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒247-0066

神奈川県鎌倉市山崎1195-3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(スズキ タカオ) 鈴木 隆夫 (令和元年9月就任)		
学 長	(アラガ ナオコ) 荒賀 直子 (令和2年4月就任)		
学 部 長	(モリ アキコ) 森 明子 (令和2年4月就任)	(キタオカ ヒデコ) 北岡 英子 (令和4年4月就任)	前任者の大学院研究科長就任のため 令和4年4月1日就任(4)
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4 年	100 人	— 年次 人	400 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	100 (-) [-]	人 () []	100 (-) [-]	人 () []	100 (-) [-]	人 () []	1.09倍	—	
志願者数	() []	() []	() []	() []	286 (-) [-]	() []	269 (-) [-]	() []	301 (-) [-]	() []			
受験者数	() []	() []	() []	() []	267 (-) [-]	() []	251 (-) [-]	() []	279 (-) [-]	() []			
合格者数	() []	() []	() []	() []	147 (-) [-]	() []	174 (-) [-]	() []	152 (-) [-]	() []			
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	107 (-) [-]	() []	114 (-) [-]	() []	106 (-) [-]	() []			
入学定員超過率 B/A					1.07			1.14			1.06		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	107 [-] (-)	[-] (-)	116 [-] (2)	[-] (-)	109 [-] (3)	[]	
2 年次			[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	103 [-] (-)	[-] (-)	111 [-] (2)	[] ()	
3 年次					[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	100 [] ()	[] ()	[] ()
4 年次							[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()
計							107 [-] (-)	219 [-] (2)	320 [] (5)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	107 人	2 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	2 人	人	他の教育機関への入学・転学(1人)、就学意欲の低下(1人)
令和3年度	219 人	4 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	4 人	人	他の教育機関への入学・転学(2人)、就学意欲の低下(1人)、家庭の事情(1人)
令和4年度	320 人	1 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	1 人	人	学生個人の心身に関する事情(1人)
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
合 計		7 人		7 人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)

・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。

・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。

・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学

・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{107} = \boxed{1.86} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{219} = \boxed{1.82} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{320} = \boxed{0.31} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 礎 教 養 科 目	人間の理解	哲学概論	1前	1							1
		生命倫理	2前	2							1
		多文化理解	1後		2						1
		文化人類学	1後		1						1
		基礎心理学	1前		1						1
		医学概論	1前	1		1					1
		キャリア発達論	1後	1							1
	コミュニケーションの方	コミュニケーション入門	1前		1						2
		国語表現法	1前	1							2
		英語Ⅰ：基礎英語	1前	1							2
		英語Ⅱ：オーラル英語	1後	1							3
		英語Ⅲ：医療英語	2前	1							1
	科学的探究	基礎ゼミナールⅠ	1前	1		13	10	3			
		基礎ゼミナールⅡ	1後	1		13	10	3			
		情報リテラシー入門	1前	1			1				
		情報リテラシー応用	1後	1			1				
		生命科学	1後		1						1
		統計学	1前		1						1
	社会と文化	鎌倉の文化と歴史	1前	1							1
		法律と人権	1後	1							1
		日本国憲法	1後		2						1
		社会福祉学	2前	1							1
		社会学	1後		1						1
		日本の近代・現代史	1後		1						1
		芸術と文化	1後	1							1
		医療と経済	2前		1						1
		世界の医療	2前		1						1
		健康と環境	1後		1						1
		体験学習	1-2・3・4期		1	1					
	運動とリクリエーション	運動とリクリエーションA	1前		1						1
		運動とリクリエーションB	1後		1						1
	小計(31科目)		-								
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1前	2		1					6
		形態機能学Ⅱ	1前	2		1					8
		生化学	1後	1							1
		病原微生物と感染	1後	2							1
	健康障害と回復	疾病治療論Ⅰ	2前	2		1					9
		疾病治療論Ⅱ	2前	2		1					10
		疾病治療論Ⅲ	2後	2		1					12
		病理学	2前	1							1
		薬理学	2前	2							1
		臨床栄養学	1前	2							3
		臨床心理学	1後	1							1
		チームケア論	4後	2							1
		リハビリテーション概論	2前	1							1
	健康支援と社会システム	公衆衛生学	2前	1							1
		公衆衛生看護学概論	2後	2		1					
		保健福祉行政論	2後	2							1
		保健統計学	1後	2							1
		疫学	2後	2							1
	小計(18科目)		-								

【令和4年度】 (2020年度入学生)

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 礎 教 養 科 目	人間の理解	哲学概論	1前	1							1
		生命倫理	2前	2							1
		多文化理解	1後		2						1
		文化人類学	1後		1						1
		基礎心理学	1前		1						1
		医学概論	1前	1		1					1
		キャリア発達論	1後	1							1
	コミュニケーションの方	コミュニケーション入門	1前		1						1
		国語表現法	1前	1							1
		英語Ⅰ：基礎英語	1前	1							2
		英語Ⅱ：オーラル英語	1後	1							3
		英語Ⅲ：医療英語	2前	1							3
	科学的探究	基礎ゼミナールⅠ	1前	1			4	9	3	3	
		基礎ゼミナールⅡ	1後	1			4	9	3	3	
		情報リテラシー入門	1前	1				1			
		情報リテラシー応用	1後	1				1			
		生命科学	1後		1						1
		統計学	1後		1						1
	社会と文化	鎌倉の文化と歴史	1前	1							3
		法律と人権	1後	1							1
		日本国憲法	1後		2						1
		社会福祉学	2前	1							1
		社会学	1後		1						1
		日本の近代・現代史	1後		1						1
		芸術と文化	1前	1							1
		医療と経済	2前		1						1
		世界の医療	2前		1						1
		健康と環境	1後		1						1
		体験学習	1-2・3・4期		1	1	1		1		
	運動とリクリエーション	運動とリクリエーションA	1後		1						3
		運動とリクリエーションB	1前		1						2
	小計(31科目)		-								
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1前	2			1				5
		形態機能学Ⅱ	1前	2			1				8
		生化学	1後	1							1
		病原微生物と感染	1後	2							1
	健康障害と回復	疾病治療論Ⅰ	2前	2			1				8
		疾病治療論Ⅱ	2前	2			1				11
		疾病治療論Ⅲ	2後	2			1				11
		病理学	2前	1							1
		薬理学	2前	2							1
		臨床栄養学	1前	2							2
		臨床心理学	1後	1							1
		チームケア論	4後	2							1
		リハビリテーション概論	2前	1							8
	健康支援と社会システム	公衆衛生学	2前	1							1
		公衆衛生看護学概論	2後	2			1	1		1	
		保健福祉行政論	2後	2					1		1
		保健統計学	1後	2							1
		疫学	2後	2							1
	小計(18科目)		-								

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	領 域 別 科 目	看護学原論	1前	2			1					
		基礎看護学援助論Ⅰ	1前	2			4		1			
		基礎看護学援助論Ⅱ	1前	2			4		1			
		基礎看護学援助論Ⅲ	1後	2			4		1			
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			4		1	1	4	
		基礎看護学実習Ⅱ	2前	2			4		1	1	4	
		看護理論・看護過程	1後	1			1					
		看護倫理	2後	2			1					
		成人看護学概論	2前	2			1					
		成人看護学援助論Ⅰ	2後	2			1	1				
		成人看護学援助論Ⅱ	2後	2			1	1				
		成人看護学実習Ⅰ	3通	3			1	1			1	
		成人看護学実習Ⅱ	3通	3			1	1			3	
		老年看護学概論	2前	1			1					
		老年看護学援助論Ⅰ	2後	2				1	1			
		老年看護学援助論Ⅱ	3前	1			1	1	1			
		老年看護学実習Ⅰ	3通	2			1	1	1		3	
		老年看護学実習Ⅱ	3通	2			1	1	1		1	
		母性看護学概論	2前	1			1					
		母性看護学援助論Ⅰ	2後	2			1	1		1		
		母性看護学援助論Ⅱ	3前	1			1	1		1		
		母性看護学実習	3通	2			1	1		1	2	
		小児看護学概論	2前	1			1					
		小児看護学援助論Ⅰ	2後	2			1	1				
		小児看護学援助論Ⅱ	3前	1			1	1				
		小児看護学実習	3通	2			2	2			1	
		精神看護学概論	2前	1				1				
		精神看護学援助論Ⅰ	2後	2				2				
		精神看護学援助論Ⅱ	3前	1				2				
		精神看護学実習	3通	2				2			1	
	統 合 科 目	在宅看護学概論	2前	1			1					
		在宅看護学援助論Ⅰ	2後	2				1	1			
		在宅看護学援助論Ⅱ	3前	2				1	1			
		在宅看護学実習Ⅰ	4前	1			1	1	1		2	
		在宅看護学実習Ⅱ	4前	1			1	1	1		2	
		看護研究概論	3前	1			1					1
		看護研究方法論	4通	2			13	9	3			
		看護管理	4後		1							1
		災害看護	4前	1								1
		救急看護	4後		1							1
		国際保健	4後		1							1
		統合実習	4前	2			12	9	3	1	7	
		フィジカルアセスメントの実践	4前	1			4		1			
		医療安全	4後		1							1
		看護教育学	4前		1		1					
		先端医療と看護	4前		1							1
クリティカルケア看護		4前		1			1					
リハビリテーション看護		4前		1							1	
感染症と看護		4前		1							1	
島嶼看護		4前	2								2	
小計(50科目)			－									
保 健 師 課 程	公衆衛生看護学方法論Ⅰ（個人、家族、集団、組織支援）	3前		2			1					
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆衛生看護活動展開方法）	4前		2		1						
	公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生看護管理、リスクマネジメント等）	4前		1		1						
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4通		3		1	1			4		
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		2		1	1			9		
	小計(5科目)	－										
合計(104科目)			－									

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	領 域 別 科 目	看護学原論	1前	2			1					
		基礎看護学援助論Ⅰ	1前	2			3	1	1			
		基礎看護学援助論Ⅱ	1前	2			3	1	1			
		基礎看護学援助論Ⅲ	1後	2			3	1	1			
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1			3	1	2	2	3	
		基礎看護学実習Ⅱ	2前	2			3	1	2	2	3	
		看護理論・看護過程	1後	1			1					
		看護倫理	2後	2			1					
		成人看護学概論	2前	2			1					
		成人看護学援助論Ⅰ	2後	2				1				
		成人看護学援助論Ⅱ	2後	2			1	1				
		成人看護学実習Ⅰ	3通	3			1	1				4
		成人看護学実習Ⅱ	3通	3				1				4
		老年看護学概論	2前	1			1					
		老年看護学援助論Ⅰ	2後	2				2				
		老年看護学援助論Ⅱ	3前	1			1	2				
		老年看護学実習Ⅰ	3通	2			1	2		1		3
		老年看護学実習Ⅱ	3通	2			1	2		1		1
		母性看護学概論	2前	1			1					
		母性看護学援助論Ⅰ	2後	2			2		1			
		母性看護学援助論Ⅱ	3前	1			2		1			
		母性看護学実習	3通	2			2		1			1
		小児看護学概論	2前	1			1					
		小児看護学援助論Ⅰ	2後	2			1	1				
		小児看護学援助論Ⅱ	3前	1			1	1				
		小児看護学実習	3通	2			2	2				1
	精神看護学概論	2前	1				1					
	精神看護学援助論Ⅰ	2後	2				2	1				
	精神看護学援助論Ⅱ	3前	1				2	1				
	精神看護学実習	3通	2				2	1			1	
	統 合 科 目	在宅看護学概論	2前	1			1					
		在宅看護学援助論Ⅰ	2後	2				1		1		
		在宅看護学援助論Ⅱ	3前	2				1		1		
		在宅看護学実習Ⅰ	4前	1			1	1		1	3	
在宅看護学実習Ⅱ		4前	1			1	1		1	3		
看護研究概論		3前	1			1					1	
看護研究方法論		4通	2			12	9	3				
看護管理		4後		1							1	
災害看護		4前	1								1	
救急看護		4後		1							1	
国際保健		4後		1							1	
統合実習		4前	2			12	10	3	3	9		
フィジカルアセスメントの実践		4前	1			3		1				
医療安全		4後		1							1	
看護教育学		4前		1		1						
先端医療と看護		4前		1							1	
クリティカルケア看護		4前		1			1					
リハビリテーション看護		4前		1							1	
感染症と看護		4前		1							1	
島嶼看護		4前	2								2	
小計(50科目)		－										
保 健 師 課 程	公衆衛生看護学方法論Ⅰ（個人、家族、集団、組織支援）	3前		2		1	1		1			
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆衛生看護活動展開方法）	4前		2		1	1		1			
	公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生看護管理、リスクマネジメント等）	4前		1		1	1					
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4通		3		1	1		1	4		
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		2		1	1		1	9		
	小計(5科目)	－										
合計(104科目)			－									

卒業要件及び履修方法
卒業要件は、基礎教養科目から必修科目17単位を含む計24単位以上、専門基礎科目から必修科目31単位、専門科目・領域別科目から必修科目52単位、専門科目・統合科目から必修科目16単位、専門科目の選択科目から5単位以上修得し、合計128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:47単位(年間)) 保健師国家試験受験資格取得のためには、卒業要件に加えて、保健師課程科目10単位を修得し、合計138単位以上修得すること。

卒業要件及び履修方法
卒業要件は、基礎教養科目から必修科目17単位を含む計24単位以上、専門基礎科目から必修科目31単位、専門科目・領域別科目から必修科目52単位、専門科目・統合科目から必修科目16単位、専門科目の選択科目から5単位以上修得し、合計128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:47単位(年間)) 保健師国家試験受験資格取得のためには、卒業要件に加えて、保健師課程科目10単位を修得し、合計138単位以上修得すること。

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 礎 教 養 科 目	人間の理解	哲学概論	1前	1							1
		生命倫理	2前	2							1
		多文化理解	1後	2							1
		文化人類学	1後	1							1
		基礎心理学	1前	1							1
		医学概論	1前	1		1					1
		キャリア発達論	1後	1							1
	コミュニケーションの方	コミュニケーション入門	1前	1							2
		国語表現法	1前	1							2
		英語Ⅰ：基礎英語	1前	1							2
		英語Ⅱ：オーラル英語	1後	1							3
		英語Ⅲ：医療英語	2前	1							1
	科学的探究	基礎ゼミナールⅠ	1前	1		13	10	3			
		基礎ゼミナールⅡ	1後	1		13	10	3			
		情報リテラシー入門	1前	1			1				
		情報リテラシー応用	1後	1			1				
		生命科学	1後	1							1
	社会と文化	統計学	1前	1							1
		鎌倉の文化と歴史	1前	1							1
		法律と人権	1後	1							1
		日本国憲法	1後	2							1
		社会福祉学	2前	1							1
		社会学	1後	1							1
		日本の近代・現代史	1後	1							1
		芸術と文化	1後	1							1
		医療と経済	2前	1							1
		世界の医療	2前	1							1
		健康と環境	1後	1							1
		体験学習	1-2・3・4期	1		1					
	運動とリクリエーション	運動とリクリエーションA	1前	1							1
		運動とリクリエーションB	1後	1							1
	小計(31科目)		-								
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1前	2		1					6
		形態機能学Ⅱ	1前	2		1					8
		生化学	1後	1							1
		病原微生物と感染	1後	2							1
	健康障害と回復	疾病治療論Ⅰ	2前	2		1					9
		疾病治療論Ⅱ	2前	2		1					10
		疾病治療論Ⅲ	2後	2		1					12
		病理学	2前	1							1
		薬理学	2前	2							1
		臨床栄養学	1前	2							3
		臨床心理学	1後	1							1
		チームケア論	4後	2							1
		リハビリテーション概論	2前	1							1
	健康支援と社会システム	公衆衛生学	2前	1							1
		公衆衛生看護学概論	2後	2		1					
		保健福祉行政論	2後	2							1
		保健統計学	1後	2							1
		疫学	2後	2							1
	小計(18科目)		-								

【令和4年度】(2022年度以降入学生)

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 礎 教 養 科 目	人間の理解	哲学概論	1前	1							1
		生命倫理	2前	2							1
		多文化理解	1後	2							1
		文化人類学	1後	1							1
		基礎心理学	1前	1							1
		医学概論	1前	1		1					1
		キャリア発達論	1後	1							1
	コミュニケーションの方	コミュニケーション入門	1前	1							1
		国語表現法	1前	1							1
		英語Ⅰ：基礎英語	1前	1							2
		英語Ⅱ：オーラル英語	1後	1							3
		英語Ⅲ：医療英語	2前	1							3
	科学的探究	基礎ゼミナールⅠ	1前	1			4	9	3	3	
		基礎ゼミナールⅡ	1後	1			4	9	3	3	
		情報リテラシー入門	1前	1				1			
		情報リテラシー応用	1後	1				1			
		生命科学	1後	1							1
	社会と文化	統計学	1後	1							1
		鎌倉の文化と歴史	1前	1							3
		法律と人権	1後	1							1
		日本国憲法	1後	2							1
		社会福祉学	2前	1							1
		社会学	1後	1							1
		日本の近代・現代史	1後	1							1
		芸術と文化	1前	1							1
		医療と経済	2前	1							1
		世界の医療	2前	1							1
		健康と環境	1後	1							1
		体験学習	1-2・3・4期	1		1	1		1		
	運動とリクリエーション	運動とリクリエーションA	1後	1							3
		運動とリクリエーションB	1前	1							2
	小計(31科目)		-								
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1前	2			1				5
		形態機能学Ⅱ	1前	2			1				8
		生化学	1後	1							1
		病原微生物と感染	1後	2							1
	健康障害と回復	疾病治療論Ⅰ	2前	2			1				8
		疾病治療論Ⅱ	2前	2			1				11
		疾病治療論Ⅲ	2後	2			1				11
		病理学	1後	1							1
		薬理学	2前	2							1
		臨床栄養学	1前	2							2
		臨床心理学	1後	1							1
		チームケア論	4後	2							1
		リハビリテーション概論	2前	1							8
	健康支援と社会システム	公衆衛生学	2前	1							1
		公衆衛生看護学概論	2後	2			1	1		1	
		保健福祉行政論	2後	2					1		1
		保健統計学	1後	2							1
		疫学	2後	2							1
	小計(18科目)		-								

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	領域別科目	看護学原論	1前	2		1					
		基礎看護学援助論Ⅰ	1前	2		4		1			
		基礎看護学援助論Ⅱ	1前	2		4		1			
		基礎看護学援助論Ⅲ	1後	2		4		1			
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1		4		1	1	4	
		基礎看護学実習Ⅱ	2前	2		4		1	1	4	
		看護理論・看護過程	1後	1		1					
		看護倫理	2後	2		1					
		成人看護学概論	2前	2		1					
		成人看護学援助論Ⅰ	2後	2		1	1				
		成人看護学援助論Ⅱ	2後	2		1	1				
		成人看護学実習Ⅰ	3通	3		1	1			1	
		成人看護学実習Ⅱ	3通	3		1	1			3	
		老年看護学概論	2前	1		1					
		老年看護学援助論Ⅰ	2後	2			1	1			
		老年看護学援助論Ⅱ	3前	1		1	1	1			
		老年看護学実習Ⅰ	3通	2		1	1	1		3	
		老年看護学実習Ⅱ	3通	2		1	1	1		1	
		母性看護学概論	2前	1		1					
		母性看護学援助論Ⅰ	2後	2		1	1		1		
		母性看護学援助論Ⅱ	3前	1		1	1		1		
		母性看護学実習	3通	2		1	1		1	2	
		小児看護学概論	2前	1		1					
		小児看護学援助論Ⅰ	2後	2		1	1				
		小児看護学援助論Ⅱ	3前	1		1	1				
		小児看護学実習	3通	2		2	2			1	
		精神看護学概論	2前	1			1				
		精神看護学援助論Ⅰ	2後	2			2				
		精神看護学援助論Ⅱ	3前	1			2				
		精神看護学実習	3通	2		2	2			1	
	統合科目	在宅看護学概論	2前	1		1					
		在宅看護学援助論Ⅰ	2後	2			1	1			
		在宅看護学援助論Ⅱ	3前	2			1	1			
		在宅看護学実習Ⅰ	4前	1		1	1	1		2	
		在宅看護学実習Ⅱ	4前	1		1	1	1		2	
		看護研究概論	3前	1		1					1
		看護研究方法論	4通	2		13	9	3			
		看護管理	4後		1						1
		災害看護	4前	1							1
		救急看護	4後		1						1
		国際保健	4後		1						1
		統合実習	4前	2		12	9	3	1	7	
		フィジカルアセスメントの実践	4前	1		4		1			
		医療安全	4後		1						1
		看護教育学	4前		1	1					
		先端医療と看護	4前		1						1
		クリティカルケア看護	4前		1		1				
		リハビリテーション看護	4前		1						1
		感染症と看護	4前		1						1
		島嶼看護	4前	2							2
		小計(50科目)	－								

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	領域別科目	看護学原論	1前	2		1					
		基礎看護学援助論Ⅰ	1前	2		3	1	1			
		基礎看護学援助論Ⅱ	1前	2		3	1	1			
		基礎看護学援助論Ⅲ	1後	2		3	1	1			
		基礎看護学実習Ⅰ	1前	1		3	1	2	2	3	
		基礎看護学実習Ⅱ	2前	2		3	1	2	2	3	
		看護理論・看護過程	1後	1		1					
		看護倫理	2後	2		1					
		地域・在宅看護学概論	2前	2		1					
		地域・在宅看護学援助論Ⅰ	2後	2			1		1		
		地域・在宅看護学援助論Ⅱ	3前	2			1		1		
		地域・在宅看護学実習Ⅰ	4前	1		1	1		1	3	
		地域・在宅看護学実習Ⅱ	4前	1		1	1		1	3	
		成人看護学概論	2前	2		1					
		成人看護学援助論Ⅰ	2後	2		1	1				
		成人看護学援助論Ⅱ	2後	2		1	1				
		成人看護学実習Ⅰ	3通	3		1	1			4	
		成人看護学実習Ⅱ	3通	3		1	1			4	
		老年看護学概論	2前	1		1					
		老年看護学援助論Ⅰ	2後	2			2				
		老年看護学援助論Ⅱ	3前	1		1	2				
		老年看護学実習Ⅰ	3通	2		1	2		1	3	
		老年看護学実習Ⅱ	3通	2		1	2		1	1	
		母性看護学概論	2前	1		1					
		母性看護学援助論Ⅰ	2後	2		2		1			
		母性看護学援助論Ⅱ	3前	1		2		1			
		母性看護学実習	3通	2		2		1		1	
		小児看護学概論	2前	1		1					
		小児看護学援助論Ⅰ	2後	2		1	1				
		小児看護学援助論Ⅱ	3前	1		1	1				
		小児看護学実習	3通	2		2	2			1	
		精神看護学概論	2前	1			1				
		精神看護学援助論Ⅰ	2後	2			2	1			
		精神看護学援助論Ⅱ	3前	1			2	1			
		精神看護学実習	3通	2		2	2	1		1	
	統合科目	看護研究概論	3前	1			1				1
		看護研究方法論	4通	2		12	9	3			
		看護管理	4後		1						1
		災害看護	4前	1							1
		救急看護	4後		1						1
		国際保健	4後		1						1
		統合実習	4前	2		12	10	3	3	9	
		フィジカルアセスメントの実践	4前	1		3		1			
		医療安全	4後		1						1
		看護教育学	4前		1	1					
		先端医療と看護	4前		1						1
		クリティカルケア看護	4前		1		1				
		リハビリテーション看護	4前		1						1
		感染症と看護	4前		1						1
		島嶼看護	4前	2							2
		小計(50科目)	－								

保健師課程	公衆衛生看護学方法論Ⅰ（個人、家族、集団、組織支援）	3前		2			1				
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆衛生看護活動展開方法）	4前		2		1					
	公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生看護管理、リスクマネジメント等）	4前		1		1					
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4通		3		1	1			4	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		2		1	1			9	
	小計(5科目)	－									
合計(104科目)		－									
卒業要件及び履修方法											
卒業要件は、基礎教養科目から必修科目17単位を含む計24単位以上、専門基礎科目から必修科目31単位、専門科目・領域別科目から必修科目52単位、専門科目・統合科目から必修科目16単位、専門科目の選択科目から5単位以上修得し、合計128単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：47単位（年間）） 保健師国家試験受験資格取得のためには、卒業要件に加えて、保健師課程科目10単位を修得し、合計138単位以上修得すること。											

保健師課程	公衆衛生看護学方法論Ⅰ（個人、家族、集団、組織支援）	3前		2		1	1		1		
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆衛生看護活動展開方法）	4前		2		1	1		1		
	公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生看護管理、リスクマネジメント等）	4前		2		1	1				
	保健福祉行政論演習	3後		1		1	1				
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4通		3		1	1		1	4	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		2		1	1		1	9	
	小計(6科目)	－									
合計(105科目)		－									
卒業要件及び履修方法											
卒業要件は、基礎教養科目から必修科目17単位を含む計24単位以上、専門基礎科目から必修科目31単位、専門科目・領域別科目から必修科目60単位、専門科目・統合科目から必修科目9単位、専門科目・統合科目の選択科目から4単位以上修得し、合計128単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：47単位（年間）） 保健師国家試験受験資格取得のためには、卒業要件に加えて、保健師課程科目12単位を修得し、合計140単位以上修得すること。											

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教養科目	人間の理解	哲学概論	1前	1							1
		生命倫理	2前	2							1
		多文化理解	1後		2						1
		文化人類学	1後		1						1
		基礎心理学	1前		1						1
		医学概論	1前	1		1					0
		キャリア発達論	1後	1							1
	コミュニケーションの方法	コミュニケーション入門	1前		1						1
		国語表現法	1前	1							1
		英語Ⅰ:基礎英語	1前	1							2
		英語Ⅱ:オーラル英語	1後	1							2
		英語Ⅲ:医療英語	2前	1							1
	科学的探究	基礎ゼミナールⅠ	1前	1		13	10	3			
		基礎ゼミナールⅡ	1後	1		13	10	3			
		情報リテラシー入門	1前	1			1				
		情報リテラシー応用	1後	1			1				
		生命科学	1後		1						1
		統計学	1後		1						1
	社会と文化	鎌倉の文化と歴史	1前	1							3
		法律と人権	1後	1							1
		日本国憲法	1後		2						1
		社会福祉学	2前	1							1
		社会学	1後		1						1
		日本の近代・現代史	1後		1						1
		芸術と文化	1前	1							1
		医療と経済	2前		1						1
		世界の医療	2前		1						1
		健康と環境	1後		1						1
		体験学習(未開講)	1・2・3・4後		1	1					
	運動とリクリエーション	運動とリクリエーションA	1後		1						3
		運動とリクリエーションB	1後		1						2
	小計(31科目)		-								
専門基礎科目	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1前	2		1					6
		形態機能学Ⅱ	1前	2		1					7
		生化学	1後	1							1
		病原微生物学と感染	1後	2							1
	健康障害と回復	疾病治療論Ⅰ	2前	2		1					9
		疾病治療論Ⅱ	2前	2		1					10
		疾病治療論Ⅲ	2後	2		1					12
		病理学	2前	1							1
		薬理学	2前	2							1
		臨床栄養学	1前	2							3
		臨床心理学	1後	1							1
		チームケア論	4後	2							1
		リハビリテーション概論	2前	1							1
	健康支援と社会システム	公衆衛生学	2前	1							1
		公衆衛生看護学概論	2後	2		1					
		保健福祉行政論	2後	2							1
		保健統計学	1後	2							1
		疫学	2後	2							1
	小計(18科目)		-								

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教養科目	人間の理解	哲学概論	1前	1							1
		生命倫理	2前	2							1
		多文化理解	1後		2						1
		文化人類学	1後		1						1
		基礎心理学	1前		1						1
		医学概論	1前	1		1					
		キャリア発達論	1後	1							1
	コミュニケーションの方法	コミュニケーション入門	1前		1						1
		国語表現法	1前	1							1
		英語Ⅰ:基礎英語	1前	1							2
		英語Ⅱ:オーラル英語	1後	1							3
		英語Ⅲ:医療英語	2前	1							3
	科学的探究	基礎ゼミナールⅠ	1前	1		13	10	1			
		基礎ゼミナールⅡ	1後	1		13	10	1			
		情報リテラシー入門	1前	1			1				
		情報リテラシー応用	1後	1			1				
		生命科学	1後		1						1
		統計学	1後		1						1
	社会と文化	鎌倉の文化と歴史	1前	1							3
		法律と人権	1後	1							1
		日本国憲法	1後		2						1
		社会福祉学	2前	1							1
		社会学	1後		1						1
		日本の近代・現代史	1後		1						1
		芸術と文化	1前	1							1
		医療と経済	2前		1						1
		世界の医療	2前		1						1
		健康と環境	1後		1						1
		体験学習	1・2・3・4後		1	1	1		1		
	運動とリクリエーション	運動とリクリエーションA	1後		1						3
		運動とリクリエーションB	1前		1						2
	小計(31科目)		-								
専門基礎科目	人体の構造と機能	形態機能学Ⅰ	1前	2		1					5
		形態機能学Ⅱ	1前	2		1					8
		生化学	1後	1							1
		病原微生物学と感染	1後	2							1
	健康障害と回復	疾病治療論Ⅰ	2前	2		1					8
		疾病治療論Ⅱ	2前	2		1					10
		疾病治療論Ⅲ	2後	2		1					12
		病理学	2前	1							1
		薬理学	2前	2							1
		臨床栄養学	1前	2							3
		臨床心理学	1後	1							1
		チームケア論	4後	2							1
		リハビリテーション概論	2前	1							8
	健康支援と社会システム	公衆衛生学	2前	1							1
		公衆衛生看護学概論	2後	2		1					
		保健福祉行政論	2後	2							1
		保健統計学	1後	2							1
		疫学	2後	2							1
	小計(18科目)		-								

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	領 域 別 科 目	看護学原論	1前	2			1					
		基礎看護学援助論Ⅰ	1前	2			4		1			
		基礎看護学援助論Ⅱ	1前	2			4		1			
		基礎看護学援助論Ⅲ	1後	2			4		1			
		基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			4		1	1	4	
		基礎看護学実習Ⅱ	2前	2			4		1	1	4	
		看護理論・看護過程	1後	1			1					
		看護倫理	2後	2			1					
		成人看護学概論	2前	2			1					
		成人看護学援助論Ⅰ	2後	2			1	1				
		成人看護学援助論Ⅱ	2後	2			1	1				
		成人看護学実習Ⅰ	3通	3			1	1			1	
		成人看護学実習Ⅱ	3通	3			1	1			3	
		老年看護学概論	2前	1			1					
		老年看護学援助論Ⅰ	2後	2				1	1			
		老年看護学援助論Ⅱ	3前	1			1	1	1			
		老年看護学実習Ⅰ	3通	2			1	1	1		3	
		老年看護学実習Ⅱ	3通	2			1	1	1		1	
		母性看護学概論	2前	1			1					
		母性看護学援助論Ⅰ	2後	2			1	1		1		
		母性看護学援助論Ⅱ	3前	1			1	1		1		
		母性看護学実習	3通	2			1	1		1	2	
		小児看護学概論	2前	1			1					
		小児看護学援助論Ⅰ	2後	2			1	1				
		小児看護学援助論Ⅱ	3前	1			1	1				
		小児看護学実習	3通	2			2	2			1	
		精神看護学概論	2前	1				1				
		精神看護学援助論Ⅰ	2後	2				2				
		精神看護学援助論Ⅱ	3前	1				2				
		精神看護学実習	3通	2				2			1	
	統 合 科 目	在宅看護学概論	2前	1			1					
		在宅看護学援助論Ⅰ	2後	2				1	1			
		在宅看護学援助論Ⅱ	3前	2				1	1			
		在宅看護学実習Ⅰ	4前	1			1	1	1		2	
		在宅看護学実習Ⅱ	4前	1			1	1	1		2	
		看護研究概論	3前	1			1					1
		看護研究方法論	4通	2			13	9	3			
		看護管理	4後		1							1
		災害看護	4前	1								1
		救急看護	4後		1							1
国際保健		4後		1							1	
統合実習		4前	2			12	9	3	1	7		
フィジカルアセスメントの実践		4前	1			4		1				
医療安全		4後		1							1	
看護教育学		4前		1		1						
先端医療と看護		4前		1							1	
クリティカルケア看護		4前		1			1					
リハビリテーション看護		4前		1							1	
感染症と看護		4前		1							1	
島嶼看護		4前	2								2	
小計(50科目)		－										
保 健 師 課 程	公衆衛生看護学方法論Ⅰ（個人、家族、集団、組織支援）	3前		2			1					
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆衛生看護活動展開方法）	4前		2		1						
	公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生看護管理、リスクマネジメント等）	4前		1		1						
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4通		3		1	1			4		
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		2		1	1			9		
	小計(5科目)	－										
合計(104科目)		－										

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼任
				必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 科 目	領域別科目	看護学原論	1前	2			1					
		基礎看護学援助論Ⅰ	1前	2			4	1	1			
		基礎看護学援助論Ⅱ	1前	2			4	1	1			
		基礎看護学援助論Ⅲ	1後	2			4	1	1			
		基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			4	1	1	3	4	
		基礎看護学実習Ⅱ	2前	2			4	1	1	3	4	
		看護理論・看護過程	1後	1			1					
		看護倫理	2後	2			1					
		成人看護学概論	2前	2			1					
		成人看護学援助論Ⅰ	2後	2			1	1				
		成人看護学援助論Ⅱ	2後	2			1	1				
		成人看護学実習Ⅰ	3通	3			1	1			1	
		成人看護学実習Ⅱ	3通	3			1	1			3	
		老年看護学概論	2前	1			1					
		老年看護学援助論Ⅰ	2後	2				1				
		老年看護学援助論Ⅱ	3前	1			1	1				
		老年看護学実習Ⅰ	3通	2			1	1		1	3	
		老年看護学実習Ⅱ	3通	2			1	1		1	1	
		母性看護学概論	2前	1			1					
		母性看護学援助論Ⅰ	2後	2			1			1		
		母性看護学援助論Ⅱ	3前	1			1			1		
		母性看護学実習	3通	2			1			1	2	
		小児看護学概論	2前	1			1					
		小児看護学援助論Ⅰ	2後	2			1	1				
		小児看護学援助論Ⅱ	3前	1			1	1				
		小児看護学実習	3通	2			2	2			1	
		精神看護学概論	2前	1				1				
		精神看護学援助論Ⅰ	2後	2				2				
		精神看護学援助論Ⅱ	3前	1				2				
		精神看護学実習	3通	2				2			1	
	統 合 科 目	在宅看護学概論	2前	1			1					
		在宅看護学援助論Ⅰ	2後	2				1				
		在宅看護学援助論Ⅱ	3前	2				1				
		在宅看護学実習Ⅰ	4前	1			1	1			2	
		在宅看護学実習Ⅱ	4前	1			1	1			2	
		看護研究概論	3前	1			1					1
		看護研究方法論	4通	2			13	9	1			
		看護管理	4後		1							1
		災害看護	4前	1								1
		救急看護	4後		1							1
		国際保健	4後		1							1
		統合実習	4前	2			12	9	1	1	7	
		フィジカルアセスメントの実践	4前	1			4		1			
		医療安全	4後		1							1
		看護教育学	4前		1		1					
		先端医療と看護	4前		1							1
クリティカルケア看護		4前		1			1					
リハビリテーション看護		4前		1							1	
感染症と看護		4前		1							1	
島嶼看護		4前	2								2	
小計(50科目)		－										
保 健 師 課 程	公衆衛生看護学方法論Ⅰ（個人、家族、集団、組織支援）	3前		2			1					
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆衛生看護活動展開方法）	4前		2		1						
	公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生看護管理、リスクマネジメント等）	4前		1		1						
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4通		3		1	1		1	4		
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4前		2		1	1		1	9		
	小計(5科目)		－									
	合計(104科目)		－									

卒業要件及び履修方法
卒業要件は、基礎教養科目から必修科目17単位を含む計24単位以上、専門基礎科目から必修科目31単位、専門科目・領域別科目から必修科目52単位、専門科目・統合科目から必修科目16単位、基礎教養科目及び専門科目の選択科目から5単位以上修得し、合計128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:47単位(年間)) 保健師国家試験受験資格取得のためには、卒業要件に加えて、保健師課程科目10単位を修得し、合計138単位以上修得すること。

卒業要件及び履修方法
卒業要件は、基礎教養科目から必修科目17単位を含む計24単位以上、専門基礎科目から必修科目31単位、専門科目・領域別科目から必修科目52単位、専門科目・統合科目から必修科目16単位、基礎教養科目及び専門科目の選択科目から5単位以上修得し、合計128単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:47単位(年間)) 保健師国家試験受験資格取得のためには、卒業要件に加えて、保健師課程科目10単位を修得し、合計138単位以上修得すること。

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

授業の開講期に係る変更

1. 1年次の基礎教養科目の開講バランスを見直し、「芸術と文化」を後期開講から前期開講に変更した。
2. 後期開講の「保健統計学」との連続性を考慮し、「統計学」を前期開講から後期開講に変更した。
3. 新型コロナウイルス感染予防の観点から、以下3つの科目について開講を前期から後期に変更した。
 - (1) 5月～9月にかけて3地域（鎌倉、奄美大島、徳之島）で実施を予定していた「体験学習」について、鎌倉については次年度以降に延期とし、奄美大島、徳之島については後期3月に改めて実施することとした。
 - (2) 授業の性質上、3密の状況が避けられない「運動とリクリエーションA」について、開講を前期から後期に変更した。
 - (3) 8・9月に実施を予定していた「基礎看護学実習Ⅰ」について、先修科目の進捗予定と受入先実習施設の状況を考慮し、開講を3月に変更した。

【令和3年度】

1. 昨年度はコロナ禍により開講期を変更（前期→後期）し、結果的に休講とした「体験学習」を、認可時の計画通り前期開講に戻した。
2. 4/20より神奈川県内で発出された特措法に基づくまん延防止等重点措置を考慮し、体育館での運動実技が中心となる「運動とリクリエーションA」を後期に、座学が中心となる「運動とリクリエーションB」を前期にそれぞれ移動した。
3. 新型コロナウイルス感染予防の観点から、8・9月に実施を予定していた「基礎看護学実習Ⅰ」について、先修科目の進捗予定と受入先実習施設の状況を考慮し、開講を3月に変更した。

【令和4年度】

1. 「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」の改正に伴い、2022年度以降入学生より、以下の通り科目名称や科目区分の変更等、教育課程を一部変更した。
 - (1) 「専門基礎科目」中の「健康障害と回復」に置いていた「病理学」の開講学年・期を2前から1後に変更した。
 - (2) 「専門科目」中の「統合科目」に置いていた在宅看護学に関する科目「在宅看護学概論」「在宅看護学援助論Ⅰ」「在宅看護学援助論Ⅱ」「在宅看護学実習Ⅰ」「在宅看護学実習Ⅱ」の科目区分を「専門科目」中の「領域別科目」に移動し、科目名を「地域・在宅看護学概論」「地域・在宅看護学援助論Ⅰ」「地域・在宅看護学援助論Ⅱ」「地域・在宅看護学実習Ⅰ」「地域・在宅看護学実習Ⅱ」にそれぞれ変更した。
 - (3) 「保健師課程」科目中の「公衆衛生看護学方法論Ⅰ」「公衆衛生看護学方法論Ⅱ」「公衆衛生看護学方法論Ⅲ」について、科目の性格を明示した副題を付し、科目名を「公衆衛生看護学方法論Ⅰ（個人、家族、集団、組織支援）」「公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆衛生看護活動展開方法）」「公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生看護管理、リスクマネジメント等）」にそれぞれ変更した。
 - (4) 「保健福祉行政論演習」（3後、選択1単位）を追加した。
 - (5) 「公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生看護管理、リスクマネジメント等）」を、1単位から2単位へ変更した。
2. 「保健福祉行政論演習」（3後、選択1単位）を加えたことにより、「保健師課程」科目数が5科目から6科目に増えた。
3. 「保健福祉行政論演習」（3後、選択1単位）を加えたことにより、教育課程全体の科目数が104から105科目に増えた。
4. 教育課程の変更（科目区分の見直しや科目増）により、以下の通り「卒業要件及び履修方法」を変更した。
 - (1) 「専門科目・領域別科目から必修科目52単位」修得の要件から、「専門科目・領域別科目から必修科目60単位」修得することとした。
 - (2) 「専門科目・統合科目から必修科目16単位」以上修得の要件から、「専門科目・統合科目から必修科目9単位」以上修得することとした。
 - (3) 「専門科目の選択科目から5単位」以上修得の要件から、「専門科目・統合科目の選択科目から4単位」以上修得することとした。
 - (4) 「保健師国家試験受験資格取得のためには、卒業要件に加えて、保健師課程科目10単位を修得し、合計138単位以上修得すること。」とした要件を、「保健師国家試験受験資格取得のためには、卒業要件に加えて、保健師課程科目12単位を修得し、合計140単位以上修得すること。」とした。

- (注) ・ 2(1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
75 科目	29 科目	0 科目	104 科目	75 科目 [0]	30 科目 [1]	0 科目 [0]	105 科目 [1]	(2022年度以降入学生)

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
75 科目	29 科目	0 科目	104 科目	75 科目 [0]	29 科目 [0]	0 科目 [0]	104 科目 [0]	(2020年度入学生)

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{0} = \boxed{\text{\#DIV/0!}} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	5,819.01㎡	㎡	㎡	5,819.01㎡	借用面積：680.00㎡ 借用期間：開設後20年			
	運動場用地	680.00㎡	㎡	㎡	680.00㎡				
	小 計	6,499.01㎡	㎡	㎡	6,499.01㎡				
	そ の 他	828.71㎡	㎡	㎡	828.71㎡				
	合 計	7,327.72㎡	㎡	㎡	7,327.72㎡				
(2) 校 舎	専 用	6,585.49㎡	0,000.00㎡	0,000.00㎡	6,585.49㎡	登記による減			
	7,033.27㎡	7,033.27㎡							
	(6,585.49㎡)	(6,585.49㎡)							
	(7,033.27㎡)	(7,033.27㎡)							
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	「語学学習施設」は 「情報処理学習施設」と兼用			
	4 室	10 室	5 室	1 室 (補助職員一人)	1 室 (補助職員一人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	看護学部看護学科			29 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	「図書」には電子図書(洋)286 点を含む 図書の増加は版の更新による分 冊等による(2) 機械・器具の増加は密集を避 けるための対策として机及び椅子 の購入や教育効果を高めるため のモニター等を購入(2) 図書の増は年次整備により3,110 冊を加えたことによる。学術雑 誌は、教育・研究環境向上のため、 medical onlineを契約した ことにより閲覧可能な電子 ジャーナル点数が大きくなった。 (3) 映像の視聴性向上のための、講義 室3室に150型スクリーンを購 入、感性・小児教育充実のため、 施設・演習モデル9点を購入 した。(3) 図書の増は年次整備による2,018 冊と、大学院開設のため53冊を 加えたことによる。 (4) 学術雑誌は、大学院開設に向け て教育・研究環境向上のため、 CINAHL Plus with Full Textを 契約したことにより閲覧可能な 電子ジャーナル点数が大きくな った。また、視聴覚資料につい ては、2領域の映像資料を充実さ せたことにより増となった。(4)	
	看護学部	11,109 [947] (11,647 [1,073]) (9,094 [783]) (5,984 [583]) (5,964 [585])	91 [58] (7,291 [5,820]) (4,529 [58]) (94 [58])	44 [44] (7,244 [5,806]) (4,482 [44]) (44 [44])	47 (115) (47) (47)	5,427 (5,706) (5,692) (5,427)	20 (20) (20) (20)		
	計	11,109 [947] (11,647 [1,073]) (9,094 [783]) (5,984 [583]) (5,964 [585])	91 [58] (7,291 [5,820]) (4,529 [58]) (94 [58])	44 [44] (7,244 [5,806]) (4,482 [44]) (44 [44])	47 (115) (47) (47)	5,427 (5,706) (5,692) (5,427)	20 (20) (20) (20)		
	(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
		375.36㎡	80		20,000				
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	708.97㎡	なし							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	電子ジャーナル、データベ ース、その他の経費を含む 開設前年度の図書購入費の減少 は廃版等によるもの(2) 開設年度の図書購入費の減少は 新版の価格改定等によるもの(3) 開設前年度の設備購入費の増は 消費税増税等によるもの(2) 開設年度の設備購入費の増は設 備充実等によるもの(2) 開設年度の設備購入費の増は設 備充実等によるもの(3)
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	31,025千円	10,650千円		
		共同研究費等	3,000千円	3,000千円	設備購入費	263,551千円	14,095千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,700千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	千円	千円		
		学生納付金以外の維持方法の概要		寄附金、手数料収入等					

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。)

- 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	湘南鎌倉医療大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所 在 地	
看護学部	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
看護学科	4	100	-	400	-	1.09	1.06	-	令和2	-	
大学全体	4	100	-	400	学士(看護学)	1.09	1.06	-	令和2	神奈川県鎌倉市山崎1195-3	
	-	100	-	400	-	-	-	-	-	-	

大 学 の 名 称	湘南鎌倉医療大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	1	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所 在 地	
看護学研究科	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
看護学専攻(博士前期課程)	2	6	-	12	修士(看護学)	1.16	1.16	-	令和3	神奈川県鎌倉市山崎1195-3	
看護学専攻(博士後期課程)	3	3	-	9	博士(看護学)	1.66	1.66	-	令和3	同上	
大学院全体	-	9	-	21	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

【令和4年度】

【令和5年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学長)	荒賀 直子 (74) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
		体験学習 公衆衛生看護学方法論Ⅱ
専	教授 (副学 長)	神代 龍吉 (67) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		医学概論 ※ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 形態機能学Ⅰ ※ 形態機能学Ⅱ ※ 疾病治療論Ⅰ ※ 疾病治療論Ⅱ ※ 疾病治療論Ⅲ ※ 看護研究方法論
専	教授 (学部 長)	森（京藤） 明子 (62) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 母性看護学概論 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護研究方法論 統合実習
専	教授	藏谷 範子 (64) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践
専	教授	寺山 範子 (67) ＜令和2年4月＞ 修士（社会学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護理論・看護過程 看護倫理 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践
専	教授	屋宜（伊藤） 譜美子 (66) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 看護学原論 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践 看護教育学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学長)	荒賀 直子 (74) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
		体験学習 公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆 衛生看護活動展開方法）
専	教授 (副学 長)	神代 龍吉 (67) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		医学概論 ※ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 形態機能学Ⅰ ※ 形態機能学Ⅱ ※ 疾病治療論Ⅰ ※ 疾病治療論Ⅱ ※ 疾病治療論Ⅲ ※ 看護研究方法論
専	教授 (学部 長)	森（京藤） 明子 (62) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 母性看護学概論 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護研究方法論 統合実習
専	教授	藏谷 範子 (64) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践
専	教授	寺山 範子 (67) ＜令和2年4月＞ 修士（社会学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護理論・看護過程 看護倫理 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践
専	教授	屋宜（伊藤） 譜美子 (66) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 看護学原論 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践 看護教育学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学長)	荒賀 直子 (75) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
		体験学習 公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆 衛生看護活動展開方法）
専	教授 (副学 長)	神代 龍吉 (68) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		医学概論 ※ 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 形態機能学Ⅰ ※ 形態機能学Ⅱ ※ 疾病治療論Ⅰ ※ 疾病治療論Ⅱ ※ 疾病治療論Ⅲ ※ 看護研究方法論
専	教授 (学部 長)	森（京藤） 明子 (63) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 母性看護学概論 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護研究方法論 統合実習
専	教授	藏谷 範子 (65) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践
専	教授	寺山 範子 (68) ＜令和2年4月＞ 修士（社会学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護理論・看護過程 看護倫理 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践
専	教授	屋宜（伊藤） 譜美子 (67) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 看護学原論 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践 看護教育学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授 (学長)	荒賀 直子 (76) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
		体験学習
専	教授 (副学 長)	神代 龍吉 (69) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		医学概論 ※ 形態機能学Ⅰ ※ 形態機能学Ⅱ ※ 疾病治療論Ⅰ ※ 疾病治療論Ⅱ ※ 疾病治療論Ⅲ ※
専	教授	森（京藤） 明子 (64) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）
		母性看護学概論 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護研究方法論 統合実習
専	教授	藏谷 範子 (66) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 看護学原論 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践 看護教育学
専	教授	寺山 範子 (69) ＜令和2年4月＞ 修士（社会学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護理論・看護過程 看護倫理 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践
専		

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	有田 清子 (57) ＜令和2年4月＞ 修士（工学）	専	教授	有田 清子 (57) ＜令和2年4月＞ 修士（工学）	専	教授	有田 清子 (58) ＜令和2年4月＞ 修士（工学）	専	教授	有田 清子 (59) ＜令和2年4月＞ 修士（工学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践
専	教授	竹本 三重子 (66) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）	専	教授	竹本 三重子 (66) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）	専	教授	竹本 三重子 (67) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）	専		
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 成人看護学概論 成人看護学実習Ⅱ 看護研究概論 ※ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 成人看護学概論 成人看護学実習Ⅱ 看護研究概論 ※ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 成人看護学概論 成人看護学実習Ⅱ 看護研究概論 ※ 看護研究方法論 統合実習			
専	教授	眞鍋 知子 (56) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学）	専	教授	眞鍋 知子 (56) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学）	専	教授	眞鍋 知子 (57) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学）	専	教授	眞鍋 知子 (58) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 看護研究方法論 統合実習			成人看護学概論 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 看護研究方法論 統合実習
専	教授	小山（滝） 幸代 (65) ＜令和3年4月＞ 博士（人間科学）	専	教授	小山（滝） 幸代 (65) ＜令和3年4月＞ 博士（人間科学）	専	教授	小山（滝） 幸代 (66) ＜令和3年4月＞ 博士（人間科学）	専	教授	小山（滝） 幸代 (67) ＜令和3年4月＞ 博士（人間科学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 老年看護学概論 老年看護学援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 老年看護学概論 老年看護学援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 老年看護学概論 老年看護学援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			老年看護学概論 老年看護学援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習
専	教授	西村 あをい (63) ＜令和4年4月＞ 博士（医学）	専	教授	西村 あをい (63) ＜令和4年4月＞ 博士（医学）	専	教授	西村 あをい (64) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）	専	教授	西村 あをい (65) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学援助論Ⅰ 小児看護学援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学援助論Ⅰ 小児看護学援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学援助論Ⅰ 小児看護学援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			小児看護学援助論Ⅰ 小児看護学援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習
専	教授	野中 淳子 (65) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）	専	教授	野中 淳子 (65) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）	専	教授	野中 淳子 (66) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）	専	教授	野中 淳子 (67) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学概論 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学概論 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学概論 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			小児看護学概論 小児看護学実習 看護研究概論 ※ 看護研究方法論 統合実習
専	教授	福島 道子 (70) ＜令和3年4月＞ 博士（社会福祉学）	専	教授	福島 道子 (70) ＜令和3年4月＞ 博士（社会福祉学）	専	教授	福島 道子 (71) ＜令和3年4月＞ 博士（社会福祉学）	専	教授	福島 道子 (72) ＜令和3年4月＞ 博士（社会福祉学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 在宅看護学概論 在宅看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 在宅看護学概論 在宅看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 在宅看護学概論 在宅看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			在宅看護学概論 在宅看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	北岡（内田） 英子 (64) ＜令和3年4月＞ 博士（看護学）	専	教授	北岡（内田） 英子 (64) ＜令和3年4月＞ 博士（看護学）	専	教授	北岡（内田） 英子 (65) ＜令和3年4月＞ 博士（看護学）	専	教授 (学部長)	北岡（内田） 英子 (66) ＜令和3年4月＞ 博士（看護学）			
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 公衆衛生看護学概論 看護研究方法論 統合実習 公衆衛生看護学方法論Ⅲ 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 公衆衛生看護学概論 看護研究方法論 統合実習 公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生管理、リスクマネジメント他） 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 公衆衛生看護学概論 看護研究方法論 統合実習 公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生管理、リスクマネジメント他） 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ			公衆衛生看護学概論 看護研究方法論 統合実習 公衆衛生看護学方法論Ⅰ（個人、家族、集団、組織支援） 公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆衛生看護活動展開方法） 公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生管理、リスクマネジメント他） 保健福祉行政論演習 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ			
									専	教授	蛭田（岡田） 明子 (54) ＜令和4年4月＞ 博士（看護学）			
											基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護研究方法論 統合実習			
専	准教授	和田（伊藤） 美也子 (51) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）	専	准教授	和田（伊藤） 美也子 (51) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）	専	准教授	和田（伊藤） 美也子 (52) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）	専	准教授	和田（伊藤） 美也子 (53) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）			
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 クリティカルケア看護			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 クリティカルケア看護			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 クリティカルケア看護			成人看護学援助論Ⅰ 成人看護学援助論Ⅱ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 クリティカルケア看護			
専	准教授	主濱 治子 (64) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）	専	准教授	主濱 治子 (64) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）									
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護研究方法論 統合実習									
専	准教授	中富 利香 (54) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学）	専	准教授	中富 利香 (54) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学）	専	准教授	中富 利香 (55) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学）	専	准教授	中富 利香 (56) ＜令和2年4月＞ 博士（保健学）			
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学援助論Ⅱ 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			
専	准教授	米山（中林） 雅子 (50) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）	専	准教授	米山（中林） 雅子 (50) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）	専	准教授	米山（中林） 雅子 (51) ＜令和2年4月＞ 博士（心身健康科学）	専	准教授	米山（中林） 雅子 (52) ＜令和2年4月＞ 博士（心身健康科学）			
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学援助論Ⅰ 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学援助論Ⅰ 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 小児看護学援助論Ⅰ 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			小児看護学援助論Ⅰ 小児看護学実習 看護研究方法論 統合実習			
専	准教授	吉野 由美子 (52) ＜令和2年4月＞ 修士（学術）	専	准教授	吉野 由美子 (52) ＜令和2年4月＞ 修士（学術）	専	准教授	吉野 由美子 (53) ＜令和2年4月＞ 修士（学術）	専	准教授	吉野 由美子 (54) ＜令和2年4月＞ 修士（学術）			
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 精神看護学概論 精神看護学援助論Ⅰ 精神看護学援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 精神看護学概論 精神看護学援助論Ⅰ 精神看護学援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 精神看護学概論 精神看護学援助論Ⅰ 精神看護学援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 精神看護学概論 精神看護学援助論Ⅰ 精神看護学援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究方法論 統合実習			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	松村（水島） 香 (61) ＜令和2年4月＞ 修士(医科学)	専	准教授	松村（水島） 香 (61) ＜令和2年4月＞ 修士(医科学)	専	准教授	松村（水島） 香 (62) ＜令和2年4月＞ 修士(医科学)	専	准教授	松村（水島） 香 (63) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 精神看護学援助論Ⅰ 精神看護学援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 精神看護学援助論Ⅰ 精神看護学援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 精神看護学援助論Ⅰ 精神看護学援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 精神看護学援助論Ⅰ 精神看護学援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究方法論 統合実習
専	准教授	小森 直美 (54) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）	専	准教授	小森 直美 (54) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）	専	准教授	小森 直美 (55) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）	専	准教授	小森 直美 (56) ＜令和2年4月＞ 修士（教育学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 在宅看護学援助論Ⅰ 在宅看護学援助論Ⅱ 在宅看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 在宅看護学援助論Ⅰ 在宅看護学援助論Ⅱ 在宅看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 在宅看護学援助論Ⅰ 在宅看護学援助論Ⅱ 在宅看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 在宅看護学援助論Ⅰ 在宅看護学援助論Ⅱ 在宅看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習
専	准教授	田邊 直行 (51) ＜令和2年4月＞ 修士（理学）	専	准教授	田邊 直行 (51) ＜令和2年4月＞ 修士（理学）	専	准教授	田邊 直行 (52) ＜令和2年4月＞ 修士（理学）	専	准教授	田邊 直行 (53) ＜令和2年4月＞ 修士（理学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 情報リテラシー入門 情報リテラシー応用			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 情報リテラシー入門 情報リテラシー応用			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 情報リテラシー入門 情報リテラシー応用			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 情報リテラシー入門 情報リテラシー応用
専	准教授	入江 晶子 (60) ＜令和2年4月＞ 修士(看護学)	専	准教授	入江 晶子 (60) ＜令和2年4月＞ 修士(看護学)	専	准教授	入江 晶子 (61) ＜令和2年4月＞ 修士(看護学)	専	准教授	入江 晶子 (62) ＜令和2年4月＞ 修士(看護学)
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 看護研究方法論 統合実習 公衆衛生看護学方法論Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 看護研究方法論 統合実習 公衆衛生看護学方法論Ⅰ（ 個人、家族、集団、組織支援 ） 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 看護研究方法論 統合実習 公衆衛生看護学方法論Ⅰ（ 個人、家族、集団、組織支援 ） 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 公衆衛生看護学概論 看護研究方法論 統合実習 公衆衛生看護学方法論Ⅰ（ 個人、家族、集団、組織支援 ） 公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆衛生看護活動展開方法） 公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生看護管理、リスクマネジメント等） 保健福祉行政論演習 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ
専	准教授	川喜田 恵美 (50) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）	専	准教授	川喜田 恵美 (50) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）	専	准教授	川喜田 恵美 (51) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）	専	准教授	川喜田 恵美 (52) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 老年看護学援助論Ⅰ 老年看護学援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 老年看護学援助論Ⅰ 老年看護学援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 老年看護学援助論Ⅰ 老年看護学援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 老年看護学援助論Ⅰ 老年看護学援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習
			専	准教授	新井 龍 (40) ＜令和2年6月＞ 博士(保健医療学)	専	准教授	新井 龍 (41) ＜令和2年6月＞ 博士(保健医療学)	専	准教授	新井 龍 (42) ＜令和2年6月＞ 博士(保健医療学)
					体験学習 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			体験学習 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			体験学習 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習
									専	准教授	佐藤 忍 (47) ＜令和4年4月＞ 修士（看護学）
								基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 老年看護学援助論Ⅰ 老年看護学援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 老年看護学援助論Ⅰ 老年看護学援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	講師	大石（大塚） 朋子 (50) ＜令和3年4月＞ 修士（看護学）	専	講師	大石（大塚） 朋子 (50) ＜令和3年4月＞ 修士（看護学）	専	講師	大石（大塚） 朋子 (51) ＜令和3年4月＞ 修士（看護学）	専	講師	大石（大塚） 朋子 (52) ＜令和3年4月＞ 博士（公衆衛生学）			
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学援助論Ⅰ 基礎看護学援助論Ⅱ 基礎看護学援助論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習 フィジカルアセスメントの実践			
専	講師	有田 秀子 (52) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）	専	講師	有田 秀子 (52) ＜令和2年4月＞ 修士（看護学）									
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 老年看護学援助論Ⅰ 老年看護学援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 老年看護学援助論Ⅰ 老年看護学援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習									
専	講師	高橋（芳賀） 由美 (63) ＜令和4年4月＞ 博士（看護学）	専	講師	高橋（芳賀） 由美 (63) ＜令和4年4月＞ 博士（看護学）									
		基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 在宅看護学援助論Ⅰ 在宅看護学援助論Ⅱ 在宅看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 在宅看護学援助論Ⅰ 在宅看護学援助論Ⅱ 在宅看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習Ⅱ 看護研究方法論 統合実習									
専	助教	高畑（廣瀬） 香織 (35) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）	専	助教	高畑（廣瀬） 香織 (35) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）	専	助教	高畑（廣瀬） 香織 (36) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）	専	講師	高畑（廣瀬） 香織 (37) ＜令和2年4月＞ 博士（看護学）			
		基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 母性看護学実習 統合実習			基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 母性看護学実習 統合実習			基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 母性看護学実習 統合実習			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 母性看護学援助論Ⅰ 母性看護学援助論Ⅱ 母性看護学実習 看護研究方法論 統合実習			
									専	准教授	藤澤 希美 (35) ＜令和4年4月＞ 修士（看護学）			
											基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 精神看護学援助論Ⅰ 精神看護学援助論Ⅱ 精神看護学実習 看護研究方法論 統合実習			
						専	助教	櫻井 純子 (43) ＜令和3年4月＞ 公衆衛生学修士（専門職）	専	助教	櫻井 純子 (44) ＜令和3年4月＞ 博士（看護科学）			
								体験学習 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ			基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 体験学習 公衆衛生看護学概論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 公衆衛生看護学方法論Ⅰ（個人、家族、集団、組織支援） 公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆衛生看護活動展開方法） 公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	長 舩 大 士 (47) ＜令和3年9月＞ 学士（医学）
		疾病治療論Ⅲ ※
兼任	講師	佐 野 次 夫 (62) ＜令和3年9月＞ 医学博士
		疾病治療論Ⅲ ※
兼任	講師	片 山 暢 子 (49) ＜令和3年9月＞ 学士（医学）
		疾病治療論Ⅲ ※
兼任	講師	藤 村 一 軌 (36) ＜令和3年4月＞ 修士（臨床薬学）
		薬理学
兼任	講師	日 高 寿 美 (59) ＜令和2年4月＞ 博士（医学）
		臨床栄養学 ※
兼任	講師	石 岡 邦 啓 (49) ＜令和2年4月＞ 学士（医学）
		臨床栄養学 ※
兼任	講師	松 本 準 (36) ＜令和2年9月＞ 修士（臨床心理学）
		臨床心理学
兼任	講師	宗 像 博 美 (67) ＜令和5年9月＞ 医学士
		チームケア論
兼任	講師	中 村 健 (53) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		リハビリテーション概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	長 舩 大 士 (46) ＜令和3年9月＞ 学士（医学）
		疾病治療論Ⅲ ※
兼任	講師	佐 野 次 夫 (61) ＜令和3年9月＞ 医学博士
		疾病治療論Ⅲ ※
兼任	講師	片 山 暢 子 (49) ＜令和3年9月＞ 学士（医学）
		疾病治療論Ⅲ ※
兼任	講師	藤 村 一 軌 (35) ＜令和3年4月＞ 修士（臨床薬学）
		薬理学
兼任	講師	櫻 井 聖 子 (38) ＜令和2年4月＞ 学士（家政学）
		臨床栄養学 ※
兼任	講師	滝 島 抄 恵 (31) ＜令和2年4月＞ 学士（医療栄養学）
		臨床栄養学 ※
兼任	講師	松 本 準 (36) ＜令和2年9月＞ 修士（臨床心理学）
		臨床心理学
兼任	講師	宗 像 博 美 (64) ＜令和5年9月＞ 医学士
		チームケア論
兼任	講師	中 村 健 (52) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		リハビリテーション概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	松 浦 賢 太 郎 (34) ＜令和3年9月＞ 医学博士
		疾病治療論Ⅲ ※
兼任	講師	佐 野 次 夫 (62) ＜令和3年9月＞ 医学博士
		疾病治療論Ⅲ ※
兼任	講師	永 井 佳 美 (41) ＜令和3年9月＞ 学士（医学）
		疾病治療論Ⅲ ※
兼任	講師	藤 村 一 軌 (36) ＜令和3年4月＞ 修士（臨床薬学）
		薬理学
兼任	講師	櫻 井 聖 子 (39) ＜令和2年4月＞ 学士（家政学）
		臨床栄養学 ※
兼任	講師	滝 島 抄 恵 (32) ＜令和2年4月＞ 学士（医療栄養学）
		臨床栄養学 ※
兼任	講師	松 本 準 (37) ＜令和2年9月＞ 修士（臨床心理学）
		臨床心理学
兼任	講師	宗 像 博 美 (65) ＜令和5年9月＞ 医学士
		チームケア論
兼任	講師	中 村 健 (53) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		リハビリテーション概論 ※
兼任	講師	金 森 裕 一 (48) ＜令和3年4月＞ 学士（医学）
		リハビリテーション概論 ※
兼任	講師	根 本 明 宣 (56) ＜令和3年4月＞ 工学博士
		リハビリテーション概論 ※
兼任	講師	山 岸 誠 (49) ＜令和3年4月＞ 准学士
		リハビリテーション概論 ※
兼任	講師	山 上 大 亮 (36) ＜令和3年4月＞ 学士（医学）
		リハビリテーション概論 ※
兼任	講師	上 杉 上 (53) ＜令和3年4月＞ 専門学校卒
		リハビリテーション概論 ※
兼任	講師	村 上 輝 美 (53) ＜令和3年4月＞ 学士（理学）
		リハビリテーション概論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	大 平 真 也 (32) ＜令和4年9月＞ 学士（医学）
		疾病治療論Ⅲ ※
兼任	講師	佐 野 次 夫 (63) ＜令和3年9月＞ 医学博士
		疾病治療論Ⅲ ※
兼任	講師	永 井 佳 美 (42) ＜令和3年9月＞ 学士（医学）
		疾病治療論Ⅲ ※
兼任	講師	藤 村 一 軌 (37) ＜令和3年4月＞ 修士（臨床薬学）
		薬理学
兼任	講師	滝 島 抄 恵 (33) ＜令和2年4月＞ 学士（医療栄養学）
		臨床栄養学 ※
兼任	講師	松 本 準 (38) ＜令和2年9月＞ 修士（臨床心理学）
		臨床心理学
兼任	講師	宗 像 博 美 (66) ＜令和5年9月＞ 医学士
		チームケア論
兼任	講師	中 村 健 (54) ＜令和3年4月＞ 博士（医学）
		リハビリテーション概論 ※
兼任	講師	金 森 裕 一 (49) ＜令和3年4月＞ 学士（医学）
		リハビリテーション概論 ※
兼任	講師	根 本 明 宣 (57) ＜令和3年4月＞ 工学博士
		リハビリテーション概論 ※
兼任	講師	山 岸 誠 (50) ＜令和3年4月＞ 准学士
		リハビリテーション概論 ※
兼任	講師	立 花 佳 枝 (30) ＜令和4年4月＞ 学士（医学）
		リハビリテーション概論 ※
兼任	講師	上 杉 上 (54) ＜令和3年4月＞ 専門学校卒
		リハビリテーション概論 ※
兼任	講師	村 上 輝 美 (54) ＜令和3年4月＞ 学士（理学）
		リハビリテーション概論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

(1) ー②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】 「基礎教養科目」の担当教員の変更について ・「医学概論」において、医学知識の基礎を学生に理解させ、知識の定着を徹底させるため、当初予定していたオムニバスによる授業方法を見直し、専任の神代教授が通期で講義を担当することとした。 ・「鎌倉の文化と歴史」において、本学建学の地鎌倉の800年来の文化と歴史を学生目線に立って、より広く・深く知ってもらうため、鎌倉五山の若手研究者である2名の兼任講師を加えたオムニバス授業とした。 ・「運動とリクリエーションA」において、運動実技・体操競技競技の種類・幅を拡げたことにより、2名の兼任講師を加えたオムニバス授業とした。 ・「運動とリクリエーションB」において、様々な年代への健康保持・増進のための実践能力をさらに身に付けさせるため、健康づくりのためのエクササイズを中心に行う兼任講師を加えたオムニバス授業とした。 ・人体の形態・機能別に担当を変えて行うオムニバス授業である「形態機能学Ⅰ」において、呼吸器の構造・機能について講義する兼任講師が現職を離れたことにより、予定単元の講義が可能な兼任講師を補充した。 ・人体の形態・機能別に担当を変えて行うオムニバス授業である「形態機能学Ⅱ」において、内分泌について講義する兼任講師が現職を離れたことにより、予定単元の講義が可能な兼任講師を補充した。 ・3名の現職医師がオムニバスで予定していた「臨床栄養学」において、本来の科目設置趣旨に沿い、臨床における栄養管理の重要性を講義すべく、専門学校で講義経験のある現職の管理栄養士を中心とした内容に変更した。 ・「保健統計学」において、担当を予定していた兼任講師の現職での職位が上がり、通常期間・時間内に授業を配置することが困難となったため、他校で同科目を長く担当している兼任講師に交代した。
【令和3年度】 ・基礎看護学領域充実のため、新井 龍准教授を令和2年6月に採用。（令和2年5月教員審査済み） ・米山 雅子准教授が博士（心身健康科学）の学位を取得。 ・公衆衛生看護学領域充実のため、櫻井 純子助教を令和3年4月に採用。（令和3年2月教員審査済み） ・有田 秀子講師の退職（死去）に伴い、老年看護学領域担当の武井 ますみ助教を令和3年4月に採用。（令和3年2月教員審査済み） ・「英語Ⅱ：オーラル英語」担当のAntoine Linton Stebbins講師の退職に伴い、後任に「英語Ⅰ：基礎英語」担当の掛川 啓子、田島 祐規子講師を充て、さらに開講クラス数を3→4に増やし、4クラス開講の「英語Ⅰ：基礎英語」とのスムーズな接続を図った。 ・1クラスのみ開講予定の「英語Ⅲ：医療英語」の学習環境向上のため、掛川 啓子、田島 祐規子講師にそれぞれ1クラス担当を増やした。 ・澤 宏紀講師の死去に伴い、令和2年9月開講の「健康と環境」は一旦櫻井 純子講師（令和3年4月より助教）が担当し、令和3年度からは澤講師のもうひとつの担当科目である「公衆衛生学」と併せ、西川 浩明講師が担当することとなった。 ・野間 聖講師に代わって就任した谷口 正実講師が野間講師が2年目に担当する予定であった「疾病治療論Ⅱ」の呼吸器系の学習に係る単元を担当することとなった。 ・小見 理恵子講師に代わって就任した田中 麻美講師が小見講師が2年目に担当する予定であった「疾病治療論Ⅰ」の内分泌系の学習に係る単元を担当することとなった。 ・酒井 忠和講師が担当する予定であった「疾病治療論Ⅰ」の免疫疾患に係る学習内容を吉澤 和希講師が担当することとなった。 ・井上 登美夫講師が担当する予定であった「疾病治療論Ⅱ」の臨床放射線医学に係る学習内容を大村 素子講師が担当することとなった。 ・河村 代志也講師が担当する予定であった「疾病治療論Ⅲ」の精神科に係る学習内容を山崎 安晴講師が担当することとなった。 ・長舩 大士講師が担当する予定であった「疾病治療論Ⅲ」の耳鼻科に係る学習内容を松浦 賢太郎講師が担当することとなった。 ・片山 暢子講師が担当する予定であった「疾病治療論Ⅲ」の小児科に係る学習内容を永井 佳美講師が担当することとなった。 ・中村 健講師が担当する全8回の「リハビリテーション概論」を、授業内容の充実を企図して、各回に専門家講師（金森、根本、山岸、山上（大）、上杉、村上（輝）、野々垣）を配したオムニバス授業とした。 ・「疾病治療論Ⅲ」担当の山崎 安晴兼任講師退職のため、山口 友紀雄兼任講師を採用した。
【令和4年度】 ・森 明子教授に代わり、北岡 英子教授が学部長となる。 ・副学長である神代 龍吉教授の負担軽減のため、「看護研究方法論」を担当から外した。 ・屋宜 譜美子教授（基礎看護学）が退職し、同教授が担当していた科目のうち「看護学原論」「看護教育学」を蔵谷 範子教授（基礎看護学）が担当することとなった。（令和3年5月教員審査済み） ・竹本 三重子教授（成人看護学）が退職し、同教授が担当していた科目のうち「成人看護学概論」を眞鍋 知子教授（基礎看護学）が、「看護研究概論」（オムニバス、2回分）を野中 淳子教授（小児看護学）がそれぞれ担当することとなった。（令和3年5月教員審査済み） ・竹本 三重子教授（成人看護学）が担当していた「成人看護学実習Ⅱ」については、眞鍋 知子教授（基礎看護学）が担当すべく教員審査中である。（令和4年5月教員審査結果において、一旦保留となっている。） ・令和4年4月の大学院開設に伴い、担当科目増となる教授8名（神代、森、眞鍋、小山、西村、野中、福島、北岡）、准教授2名（和田、米山）の負担軽減のため、「基礎ゼミナールⅠ」「基礎ゼミナールⅡ」をそれぞれ担当から外し、大学院科目を担当しない教授（寺山、有田、蔵谷）を中心に、昨年まで同科目担当のなかった助教（武井、櫻井）や令和4年4月に新規採用する教員（蛭田、佐藤、藤澤、松本）を中心に、新たに19人の教員で再編成することとした。（新規に担当する教員7名（蛭田、佐藤、高畑、藤澤、武井、櫻井、松本）について、令和3年5月～令和4年5月にかけて、それぞれ教員審査済み） ・令和2年度に退職した主演 治子准教授（母性看護学）の後任として、蛭田 明子教授を令和4年4月に採用した。（令和3年8月教員審査済み） ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正等を受け、令和4年4月入学生以降の新カリキュラム編成に当たり、授業内容等充実のため、以下の科目において担当教員を変更・追加した。（令和4年5月教員審査済み） ○「公衆衛生看護学概論」の担当に入江 晶子准教授（公衆衛生看護学）、櫻井 純子助教（公衆衛生看護学）を追加した。 ○「公衆衛生看護学方法論Ⅰ（個人、家族、集団、組織支援）」の担当に北岡 英子教授（公衆衛生看護学）、櫻井 純子助教（公衆衛生看護学）を追加した。 ○「公衆衛生看護学方法論Ⅱ（公衆衛生看護活動展開方法）」の科目責任者を荒賀 直子教授（公衆衛生看護学）から入江 晶子准教授（公衆衛生看護学）に変更し、担当に北岡 英子教授（公衆衛生看護学）、櫻井 純子助教（公衆衛生看護学）を追加した。 ○公衆衛生看護学方法論Ⅲ（公衆衛生看護管理、リスクマネジメント等）の担当に入江 晶子准教授を追加した。 ○新規に追加した科目「保健福祉行政論演習」の担当（科目責任者）を入江 晶子准教授（公衆衛生看護学）とし、担当に北岡 英子教授（公衆衛生看護学）を追加した。 ・老年看護学領域充実のため、佐藤 忍准教授を令和4年4月に採用した。（令和4年2月教員審査済み） ・大石 朋子講師が博士（公衆衛生学）の学位を取得した。 ・高畑 香織助教が講師に昇格した。（令和3年5月教員審査済み） ・精神看護学領域充実のため、藤澤 希美講師を令和4年4月に採用した。（令和3年12月教員審査済み） ・在宅看護学領域充実のため、松本 光生助教を令和4年4月に採用した。（令和3年12月教員審査済み） ・「基礎心理学」担当の松浦 賢太郎兼任講師退職のため、長 大介兼任講師を採用した。 ・「鎌倉の文化と歴史」担当の白川 宗源兼任講師退職のため、山名田 紹山兼任講師を採用した。 ・「疾病治療論Ⅱ」の授業内容充実のため、福井 朋也兼任講師を採用し、担当に加えた。 ・「疾病治療論Ⅲ」担当の松浦 賢太郎兼任講師退職のため、大平 真也兼任講師を採用した。 ・「臨床栄養学」担当の長谷川 孝兼任講師退職のため、加勢 宏樹兼任講師を採用した。 ・「リハビリテーション概論」担当の山上 大介兼任講師退職のため、立花 佳枝兼任講師を採用した。 ・「法律と人権」「日本国憲法」担当の久保 健介兼任講師退職のため、三枝 昌幸兼任講師を採用した。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数
19	10
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
14	10	3	1	28	10	13	11	3	3	30	3
(10)	(10)	(1)	(1)	(22)	(6)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
14	11	3	3	31	8	14	11	3	3	31	10
[0]	[+1]	[0]	[+2]	[+3]	[0]	[+1]	[0]	[0]	[3]	[1]	[+7]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	9	10
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{31}{28} = \boxed{110.71} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{9}{30} = \boxed{30} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{8}{10} = \boxed{80} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	講師	高橋（芳賀） 由美	R3.3	必修	基礎ゼミナールⅠ	①	R3.3 家庭の事情により就任辞退（3）						
				必修	基礎ゼミナールⅡ	①							
				必修	在宅看護学援助論Ⅰ	①							
				必修	在宅看護学援助論Ⅱ	①							
				必修	在宅看護学実習Ⅰ	①							
				必修	在宅看護学実習Ⅱ	①							
				必修	看護研究方法論	①							
				必修	統合実習	①							
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
1	人	必修	8	科目	必修	8	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	8	科目	計	8	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	准教授	主 濱 治子	R2.12	必修	基礎ゼミナールⅠ	①	R2.12.31付け、病氣療養のため辞任（3）
				必修	基礎ゼミナールⅡ	①	
				必修	母性看護学援助論Ⅰ	①	
				必修	母性看護学援助論Ⅱ	①	
				必修	母性看護学実習	①	
				必修	看護研究方法論	①	
				必修	統合実習	①	
2	講師	有 田 秀子	R2.11	必修	基礎ゼミナールⅠ	①	R2.11.17付け、死去のため退職（3）
				必修	基礎ゼミナールⅡ	①	
				必修	老年看護学援助論Ⅰ	①	
				必修	老年看護学援助論Ⅱ	①	
				必修	老年看護学実習Ⅰ	①	
				必修	老年看護学実習Ⅱ	①	
				必修	看護研究方法論	①	
				必修	統合実習	①	

3	教授	屋宜（伊藤） 譜美子	R4.3	必修	基礎ゼミナールⅠ	①	R4.3.31付け、一身上の都合により退職（４）							
				必修	基礎ゼミナールⅡ	①								
				必修	看護学原論	①								
				必修	基礎看護学援助論Ⅰ	①								
				必修	基礎看護学援助論Ⅱ	①								
				必修	基礎看護学援助論Ⅲ	①								
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①								
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①								
				必修	看護研究方法論	①								
				必修	統合実習	①								
				必修	フィジカルアセスメントの実践	①								
				選択	看護教育学	①								
4	教授	竹本 三重子	R4.3	必修	基礎ゼミナールⅠ	①	R4.3.31付け、一身上の都合により退職（４）							
				必修	基礎ゼミナールⅡ	①								
				必修	成人看護学概論	①								
				必修	成人看護学実習Ⅱ	①								
				必修	看護研究概論 ※	①								
				必修	看護研究方法論	①								
				必修	統合実習	①								
合計（Ｆ）					後任補充状況の集計（Ｇ）									
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
4	人	必修	33	科目	必修	33	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	34	科目	計	34	科目	計	0	科目	計	0	科目	

- （注）・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（3）－③ 上記（3）－① ・ （3）－② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）							
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
5	人	必修	41 科目	必修	41 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	42 科目	計	42 科目	計	0 科目	計	0 科目		

（3）－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{5}{28} = \boxed{17.85} \%$$

（注）・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

（3）－⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2 人

（注）・（3）－①、（3）－②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況		辞任等の理由					
		該当なし											
合計						後任補充状況の集計							
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

この3月に退職した2名の教授（基礎看護学領域、成人看護学領域）について、基礎看護学領域の教授の担当科目は12科目中4科目が4年次（令和5年度）開講であり、うち3科目は共同授業である。また、その他の8科目についても、うち7科目（1年次科目6、2年次科目1）は共同授業で、とくに1年次科目については当初より担当としていないため、学生への影響はない。成人看護学領域の教授の担当科目は7科目で、うち5科目は共同、残る2科目のうち1科目はオムニバス授業で、それぞれ学生への影響はないと考えている。

2名が単独で担当する科目については、同じ領域の教授が後任となるため、運用上の問題はない。（令和3年5月教員審査済み）

後任について、成人看護学領域については後任を補充すべく候補者を探している。

- (注) ・ 上記（3）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時	設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことにより、その水準を一層向上させるよう努めること。	設置計画に掲げた専任教員及び専任職員は計画通り4月1日に就任しており、新型コロナウイルス対策の一環として学生への遠隔授業を開始するための準備を進めている。令和2年4月23日より遠隔授業を開始し、学生のネット環境を調査・把握した上で、環境が不十分な学生へのWi-Fiの貸出等を行うとともに、遠隔授業実施に向けた教職員のトレーニングを行った。講義開始の時期は遅れたが、前期で実施する科目について後期開始までの間に学生が十分に学修できるようカリキュラム・時間割の調整を図っている。 研究活動においては、研究に関する諸規程を整備し不正防止委員会や研究倫理委員会を開催した。(2)	新型コロナウイルスの流行により、本学は第一期生が登校できない状況下にある。そのような環境下で、学生が本来あるべき学生生活が送れていないことに不安を感じ学修意欲を低下させない為にも、アドバイザー制度の周知と活用を促し、かつ、臨床心理士や保健師によるカウンセリング体制の更なる強化を図ることとしている。 現在実施している遠隔授業についても、学生の学習状況を把握するためアンケート等を実施している。また、1年次9月に実施する基礎看護実習については、年明け3月に延期すべく各実習先との調整を行っている最中である。学生の学修機会の遅延に対し、4年制大学の特性を生かし、年次進行の中で学生が本学のディプロマポリシーを達成できるよう配慮する。 教員の研究活動に対する影響にも配慮し、研究実績が豊富な教員による公的研究費獲得のための支援体制の強化や学内の共同研究費の交付などを行っていく。(2)
(令和元年)		遵守事項	履行中 令和3年度は昨年度と同様に、学生・教職員が学内外での徹底した感染症対策の下で対面授業を継続し、実習をはじめ、開講予定の科目すべてを計画通り実施することとしたい。(3) 令和4年度は昨年度までの取組みに加え、必要に応じて実習先施設との会議を開催し連携の強化を図っていく。 また、学内にカリキュラム評価・開発委員会を設置し、指定規則改正後の新カリキュラムを円滑に運用していくための検討や学内連携を図っていく予定である。(4)

	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。	遵守事項	現在、新規採用した助手5名のうち1名は准教授として文部科学省の教員審査中である。また、大学設置の趣旨に基づき、残る4名の助手も20歳代から40歳代で、現在は着任の翌日から指導担当教員の下、今後の教育及び研究の方向性について積極的に意見を交わしている。(2)	将来的には外部からの採用のほかに大学院開設等を見据え、本学で育成した教員の内部昇格を積極的に図りたい。(2) 令和3年度は全体の若返りと領域間の適正な教員数バランスを保つため、老年看護学領域で退職した講師の後任に40歳代の助教と、新たに公衆衛生看護学領域で40歳代の助教を採用した。 完成年度以降も退職補充による教員採用は40・50歳代を中心とし、長期キャリアの形成とともに、教育・研究業績を積んだ若手研究者の適正な昇任等により、教育課程の底上げと充実を図る予定である。(3) 令和4年度も引き続き老年看護学領域に40歳代の准教授と、精神看護学領域に30歳代の講師を採用した。また、成人看護学領域で退職した教授の後任には講師を採用すべく公募活動を進めている。 教員の長期キャリア形成のための適正な昇任に向け、博士学位の取得を学内教員に向けて奨励している。(令和3年度は3名が博士課程学位を新たに取得) (4)	履行中
設置計画履行状況調査時 (令和2年)	該当なし				

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 施設・設備 a 図書 11, 109 (5, 964) 冊 b 学術雑誌等 91種 c 機械・器具 5, 427点	① 納入を予定していた図書について、改版や分冊等により、5, 964冊に対し17冊増の5, 981冊となった。また、学術冊子については、「メディカルオンライン」をはじめ、「Web of Science」「Visible Body on Ovid Anatomy&Physiology」他、全体で7本の同時アクセス数無制限でリモートアクセス可能なデータベースを購入、または年間購読契約を結び、専門領域の学修環境の整備・充実とオンライン学修への利便性を図るべく、大幅に数を増やした。また、機械・器具については、映像教材の視認性向上のため、講義室3室に150型スクリーンを、母性・小児教育充実のため、触診・演習モデル9点を購入する等したことにより、全体点数を増やした。 令和3年度は大学院新設のため、和洋図書537冊、データベース1本を加え、11, 647冊に、学術雑誌は電子ジャーナルを中心に1, 529種から7, 291種へと大幅に種類を増やすこととなった。その他、視聴覚資料は47点から115点に、機械・器具は5, 692点から5, 706点に増やし、それぞれ教育・研究環境を大きく向上させている。
② 経費 図書購入費 11, 132千円 設備購入費 2, 000千円	② 図書について、改版等による価格改定により482千円減額の10, 650千円となった（オンラインデータベースの年間購読契約料金は除く）。設備購入費については、映像教材の視認性向上のため、講義室3室に150型スクリーンを、母性・小児教育充実のため、触診・演習モデル9点を新たに購入する等により、当初の2, 000千円に対し、12, 095千円増の14, 095千円となった。 図書購入費について、開設2年目の令和3年度は設置計画に基づき和洋図書2, 018冊8, 217千円を購入し、その他大学院新設のため、和洋図書537冊、データベース1本、視聴覚資料56点の計6, 648千円を購入、更に教育研究環境向上のため、「医中誌Webアクセスフリープラン」その他計6本6, 543千円のデータベースを購読契約した。 また、令和4年度に入り、新たにタイトル数5, 762点の外国語雑誌・論文の閲覧が可能な「CINAHL Plus with Full Text」1, 859千円の購読契約をした。

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

学則第3条第2項の規定に基づきFD・SD委員会を設置している。

（趣旨）

第1条 湘南鎌倉医療大学（以下「本学」という。）は、学則第3条第2項の規定に基づき、本学の教育目的の達成に向け、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）及びスタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）を積極的に推進するために、湘南鎌倉医療大学FD・SD委員会（以下「委員会」という。）を置き、必要な事項を定める。

2 委員会は、本学の教育目的を達成するため、教育・研究内容及び教育方法についての改善、教育・研究活動等の支援等について、個人の能力開発及び組織間の連携を推進し、組織的な能力開発に取り組むことを目的とする。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

年間10回開催し、教員は概ね参加している。（欠席者へは録画した映像の視聴を促している。）

c 委員会の審議事項等

（審議事項）

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議するとともに、組織的な取り組みを推進するための具体的方策を学長に提案する。

- (1) 教育研究活動改善のための企画立案
- (2) 教育研究の支援もしくは環境の改善方策のための企画立案
- (3) FD・SD研修プログラムの開発・実施
- (4) FD・SD活動に関する情報の収集と提供
- (5) その他学長の諮問する事項

2 学長は、委員会の提案を受け、学内体制を整備する。

② 実施状況

a 実施内容

- ・ クラス・ピア・レビュー
- ・ 研究倫理に関する研修会
- ・ 研究計画書に関する研修会
- ・ 私学経営の基礎知識に関する研修会 等

b 実施方法

主に講義形式研修であった。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ①クラス・ピア・レビュー（前期：5授業19名、後期：7授業24名）
- ①研究倫理に関する研修会（31名） ②研究計画書に関する研修会（28名）
- ③私学経営の基礎知識（30名） ④現行カリキュラムに関する意見交換会（26名）
- ⑤ハラスメント防止等に関する研修会（27名） ⑥学生をどのように育てたいか？を語る会（29名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

クラス・ピア・レビューは、教員相互に自身の授業を公開し、他者意見・評価に耳を傾けることで教授法の工夫・授業改善に役立てている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各期の最終授業時に、インターネット（イントラネット）を利用して15項目からなる授業評価アンケートを実施した。結果は各担当教員にメール、郵送等で知らせ、それぞれの授業への改善意見や学生から寄せられた意見へのフィードバックを募り、授業を実施したほぼすべての教員からコメントを回収することが出来た。

b 教員や学生への公開状況、方法等

各授業の授業評価アンケート結果（全項目）と教員から寄せられたコメント（改善意見や学生から寄せられた意見へのフィードバック）は、2022年度前期授業期間中（4～8月初旬まで）を通し、学内のイントラネット上に公開されている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

（4）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学は令和元年9月に設置認可を受け、開学に向けた準備を進め、令和元年10月に就任予定の専任教員及び非常勤講師を対象に説明会を実施し、大学開設の報告と建学の精神、教育の理念・方針の確認と共有を行い、令和2年から4月と令和3年4月には、新規採用の教職員に対して、新任研修等を通じて本学の使命及び教育目的について理解と定着を図った。

入学試験については、アドミッションポリシーに沿った入試区分及び選考方法を基に入学者の確保に努めた。学校推薦型選抜及び一般選抜を通じ、すべての受験生に対し、面接試験を実施し、看護学を学ぶ意欲や個々の感性やコミュニケーション能力を評価した。また一般選抜だけでなく、学校推薦型選抜においても学力試験として「基礎学力試験」を実施し、看護学を学ぶために必要な基礎学力（英・国・数・生・化）を計り、「小論文試験」を通じ、個々の柔軟な思考力・発想力などを評価した。全受験生を学力と人物評価の両面から選考を行い、令和2年度は定員100名に対し107名、令和3年度は114名、令和4年度は106名の入学者を確保することができた。

教育課程等については、開学初年度の令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のための緊急事態宣言が発令され、前期開講が遅れ、基礎看護学実習は6か月延期、体験学習は中止になったが、それ以外の科目の教育に大きな影響はなくほぼ予定通りの教育課程が行われ、非常事態宣言期間中においては、Webによる双方向、あるいはオンデマンドによる遠隔による教授方法を実践した。

令和3年度は、令和2（2020）年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策の影響により実習の延期、一部体験学習の中止などにみまわれた。通常の授業については、授業の進度、質の低下を招かないよう、対面授業を基本として行ったが、今年に入り新型コロナウイルス感染症が急拡大したため、一部WEBを活用した遠隔授業に切り替え実施した。教職員は、首都圏の感染状況が比較的安定していた期間は対面授業を行い、学生の不安軽減とコミュニケーションに努めていた。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和4年8月末日 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和4年8月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 令和 8 年に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受ける予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（5）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和 4 年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後 1 ヶ月以内 ・ ☒ 公表後 2 ～ 3 ヶ月以内 ・ 公表後 3 ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。